

スリランカの地域社会における子供の教育に対する熱意

ティリニ・ウィジェトウンガ（スリランカ）

スリランカは何年もの間、90%以上の高い識字率を維持しています。これは、この国の長年にわたる公教育の無償化と積極的な社会政策が広く浸透した結果です。教育制度上も男女の差別はなく、今日では大部分の親が教育の重要性を理解し、性別に関係なく自分の子どもに優れた教育を受けさせることに熱心です。そのため、親は子どもをより良い学校に通わせたいと考えています。学校は全国各地にあります。そこには地域格差が生じています。都会にある国立学校は、設備も優秀な教師もそろっているため、良い学校だと評価される一方、経済的に貧しい遠隔地にある学校設備の水準は、非常に低いのが現状です。

この国の上流階級、上流中産階級、中産階級といった社会階級に属する親たちの間では、子どもを主要都市の優良校に入学させるための激争が繰り広げられます。中には、スリランカ最大の都市コロンボにある有名校に子どもを通わせたいと考える家庭もあります。それはやはり、設備と教師陣の充実度が他とは異なるからです。国内でも高い教養があるとされる人たちは、このような有名校の出身者であることが多く、子どもを同じ学校に入れることに誇りを感じています。また、子どもが質の高い教育を受けられることに加え、同じバックグラウンドを持つ友人に囲まれて成長できることが、人気のもう一つの理由です。



スリランカの農村部の学校の生徒たち

しかし、主要都市の学校の数に限られており、このような要求を十分に満たせるわけではありません。そのため、需要に応える形で、近年数多くの私立学校が国内に新設されており、子どもを有名校に入学させられなかった親は、代わりにこれらの私立学校に通わせます。これらの学校は、海外駐在員の家庭の子どもも通うため、インターナショナルスクールとして知られています。今日の労働市場で職を得るためには、英語の習得が必須であることを親も重々承知しているので、多くの家庭が子どもをインターナショナルスクールで学ばせる方が良いと判断しています。



スリランカ都市部のインターナショナル
スクールで学ぶ生徒たち

しかし、経済的に恵まれない農村部となると、状況は一変します。政府による相当な額の教育支出に関わらず、多くの農村部の学校には、生徒に質の高い教育を提供するために必要な設備や教師がそろっていません。中には、老朽化した校舎が1棟あるだけで、教師が1～2名しかいないような学校もあります。また、机や椅子さえも備わっていないため、生徒たちは床に直接座らざるを得ないような学校もあります。さらに、水道や衛生設備が無い学校も多く存在します。そのため、子どもをこのような学校に通わせているのは、社会的階層が低い家庭だけです。そのような家庭は、近隣の都市にあるより良い学校に子どもを通わせる余裕がないからです。

教育に関して、最も状況に左右され被害を受けやすいのは女子です。主な要因は貧困で、多くの女子が学校の中退を余儀なくされる一方で、そもそも初めから学校に通う機会を与えられていない女子もいます。また、多くの家庭では、安全性に対する懸念から、娘を遠くの学校に通わせることを望みません。新聞は毎日のように、レイプや性的虐待の記事を伝えています。特に農村部の女子の方が、性的暴行の被害者になりやすい傾向があります。これらの犯罪に対する大規模な抗議活動が行われてはいますが、女性が被害者となる事件は依然として頻繁に起きています。

さらに、女子教育に影響を与える要因が他にも存在します。農村部の貧しいコミュニティでは、経済的な困窮から、多くの母親が海外で家事使用人として働いています。母親が不在となった家庭では、年上の女の子が自らの教育を犠牲にして家事をこなさなければならない、またそうすることが当然だと捉えられているのです。

このような障害が立ちはだかっているのが事実ですが、それでも教育の機会さえ与えられれば、女子は学業において優れた成果をあげています。高等教育において優秀な成績を修める女子の人数は、男子よりもはるかに多いことが明らかになっています。スリランカでは女性の人口が50%を超えており、また都市部の女子は農村部の女子に比べて、より設備の充実した環境で男子と平等に教育を受けられる状況にあります。こうした現状を鑑みて、スリランカにおける教育を推進するために、政府にはより積極的な措置を講じることが求められるでしょう。